

第45回 中区明るい選挙推進作文コンクール

入

賞

作

品

集



中区明るい選挙推進協議会



第45回 中区明るい選挙推進作文コンクール



「中区明るい選挙推進作文コンクール」は、大切な選挙や、選挙につながる「まちづくり」をテーマとした作文を夏休みの課題として区内在住在学の小・中学生から募集し、政治や社会の仕組みに関心を持ってもらうとともに、選挙に関する意識を社会的にも高めることを目的として、毎年開催しています。

今年度は、小学生A部門(1～3年生)に243作品、小学生B部門(4～6年生)に460作品、中学生部門に148作品、合計851作品もの応募が寄せられました。応募作品は、区内小・中学校教員、中区明るい選挙推進協議会会長、中区選挙管理委員会委員長、中区长により審査され、各部門において金賞1名、銀賞2名、銅賞3名、合計18の優秀作品が選ばれました。

■小学生A部門(1～3年生)

テーマ 「わたしのまちのすきなところ」

■小学生B部門(4～6年生)

テーマ 「より良いまちをつくるために私たちにできること」

■中学生部門

テーマ 「選挙について考える」



入賞作品は中区役所ホームページにも掲載しています

<https://www.city.yokohama.lg.jp/naka/kusei/shikai-senkyo/keihatsu/>

目次

― 小学生A部門（一～三年生） ―

・金賞（中区長賞）	わたしのすきなお店	本町小学校	二年	渡邊	楓子	1
・銀賞	つながりのある立野のまち 人と人をつなぐスポーツ	立野小学校 北方小学校	三年 三年	前田 安達	啓太 縁人	2 3
・銅賞	よこはまのなぞ ぼくの大好きな公園 このまちにあってほかのまちにはないもの	立野小学校 立野小学校	二年 三年	郡司 篠原	倫 司	4 5
	みなとみらい本町小学校	一年	平澤	優奈		6

― 小学生B部門（四～六年生） ―

・金賞（中区選挙管理委員会委員長賞）	歓声の影で	立野小学校	六年	宮崎	七海	7
・銀賞	より良いまちをつくるために私たちにできること	本町小学校 本牧南小学校	五年 五年	新保 疋田	結衣 花	8 9
・銅賞	ほんとうの便利なまち	立野小学校	四年	望月	緑太	10
	あいさつが広げる幸せの輪 わたしたちがつくる未来のまち 自分の一票に責任をもつ	立野小学校 立野小学校 間門小学校	五年 五年 六年	藤井 富川	悠仁 尚輝	11 12

― 中学生部門 ―

・金賞（中区明るい選挙推進協議会会長賞）	選挙の投票率を上げるには	港中学校	一年	斉藤	暖弥	13
・銀賞	今の私たちができること 「無関心」という一票	仲尾台中学校 仲尾台中学校	一年 一年	坂井 大井	悠夏 貴喜	14 15
・銅賞	投票でつながる輝く未来 若い人たちの投票率と政治教育 選択の責任	仲尾台中学校 港中学校 港中学校 港中学校	一年 二年 二年 二年	稗嶋 大内田 高木	恵都 陽菜子 希和	16 17 18

小学生A部門

☆☆☆ 金賞（中区长賞） ☆☆☆

「わたしのすきなお店」

本町小学校 二年 渡邊 楓子

わたしの町には小さいけれどすてきなお店がたくさんあります。おそば屋さん、魚屋さん、和がし屋さん、肉屋さん、ほかにもいくつもあります。その中でもすきなお店は、八百屋さんとおそば屋さんの太そうあんです。まずは、八百屋さんについて書きたいと思います。

八百屋さんには、やさしいおじちゃんおばちゃん、お兄さんとお姉さんがいます。わたしが0才の時にお母さんがたまたまやさいもを買っておいしいと思ったのがきっかけで、何でも行くようになりました。わたしが一人でおつかいに行った時はいつもやさしく、

「一人でおつかいできてえらいねえ。」
とほめてくれたのでわたしはドキドキしていたけどおちつくことができました。
おばちゃんの作ったきゅうりのぬかづけとおじちゃんのところであまいやさいもが大好きです。

もう一つは太そうあんです。やさしくて元気なおじちゃんとおもしろくて話が上手なおばちゃんがあります。わたしがすきなメニューは力うどんです。こんがりやけたおもちが二つも入っていてとてもおいしいです。お母さんも力うどんが大好きで、お父さんとお兄ちゃんも天どんが大好きです。一年生になってはじめて学校に行った時、お店の前におじちゃんとおばちゃんが出て、

「がんばって！頑張ってらっしゃい。」
と言ってくれたので元気ができました。

わたしは、八百屋さんも太そうあんでもずっとつづいてほしいなあと思っていました。でも八百屋さんは今年の7月でお店を閉めてしまいました。みんなびっくりしていました。おじちゃんの体のちようしがわるくなってしまったからです。とてもかなしかったけど、さいごのえいぎよう日にたくさんお買い物をしていきました。それなのにたくさんおまけしてくれました。さいごにきねんさつえいをして、お店を出る時おじちゃんたちはこにこしていたけどわたしはさびしかったです。そして太そうあんでも6月におじちゃんが入いんして一か月くらいお店をしめていました。さいしよはりゆうがわからなくてみんなとても心ばいしました。わたしは、このままお店がなくなったらどうしようと思いました。お手紙も書きました。ある日学校がえりにおばちゃんが、

「土曜日からお店やるよ。お手紙ありがとう。おじちゃんのまくらもとにおいてたよ。」
と言いました。わたしはいそいで帰るとお母さんにつたえました。ひさしぶりにたべた力うどんはものすごくおいしかったです。太そうあんはお昼だけのえいぎようになっちゃったけれど、色んな思い出心の中にのこっています。

八百屋さんとおそうあんのことがあり、大きなお店もたのしいけれど、わたしはこれからも小さなお店がたくさんある町にすみたいです。

〈講評〉

「わたしのすきなお店」という題名のとおり、紹介されている八百屋さんやお蕎麦屋さんのことを大好きな気持ちがよく伝わってくる素晴らしい作品でした。お気に入りのメニューを綴るにとどまらず、会話を盛り込みながら具体的なエピソードがありりと表現されています。お店の方々の心豊かな日常が目につかび、読んでいて胸が熱くなりました。

中区は市内でもお店の数が多いい区です。様々な出会いを重ねながら、今後に好きなお店が増え、地域のみなさんとのつながりが深まっていくことを願っております。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「つながりのある立野のまち」

立野小学校 三年 前田 啓太

ぼくは、生まれてからずっと立野のまちに住んでいて、このまちのすきなところがたくさんあります。立野のまちは、山手えきのすぐ近くにあり、ぼくが通っている立野小学校や大和町商店がい、緑がたくさんのおね岸森林公園、ログハウスのあるかしわ葉公園もあって、子どもから大人まで住みやすいまちです。また、しずかな住たくがいがたくさんあって家にもゆっくりすごせるところもぼくは気に入っています。

ぼくは、二年生の時に、立野小学校のみんなとまちたんけんに行きました。大和町商店が古いまちなみで、昔からあるお店がたくさんなっています。トキワせん魚店では、サケやまだい、マグロなどの新せんな魚を売っていて、地いきの人がたくさん買いにくるお店です。ぼくも前に、サケを買って食べたときに、スーパーマーケットで買うサケよりもみがふっくらしておいしいかったです。お店の前にメダカがいたので、

「このメダカはどうしたんですか。」とたずねると、

「地いきの人からもらったメダカでずっと大事にそだているんだよ。」と教えてくれました。お店の人が地いきの人とのつながりを大切にしていることが分かって、とてもやさしいと思いました。

えき前におにぎり屋さんでは、トキワせん魚店から仕入れたサケを使っておにぎりがおすすめだそうです。ぼくはここでも大和町商店がいの人たちのつながりを感じて、すてきなと思いました。

ぼくの住んでいる立野のまちには、地いきの人たちのつながりがたくさんあります。ぼくは、これからも地いきのイベントにさんかしたり、お店の人や近所の人とお話をして、地いきの人たちとのつながりを大切にしていきたいです。

〈講評〉

立野のまちの良いところがいくつも述べられており、作者の「立野のまちが大好き」という気持ちが伝わってきました。鮮魚店やおにぎり屋さんとの会話から、まちの人たちの優しさやつながりに気付いたことで、よりまちの温かさを感じたことでしょう。

文章を読んで、私も立野のまちのお店に行ってみたくなりました。

この経験をもとに、作者がこれからも様々な人との会話を楽しみ、作者自身もつながりを生み出していくことを願います。

☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「人と人をつなぐスポーツ」

北方小学校 三年 安達 縁人

ぼくのおばあちゃんは今年で七十才！けんこうで元気いっぱい！近所のお年よりのなかまたちといっしょに毎週水曜日と金曜日にバドミントンやピククルというスポーツをしている。夏休みなのでぼくもそこにさんかさせてもらうことにした。近所に住んでいる人達だけど、ぼくの知らない会ったことのない人達ばかりだったのできんちようした。初めて会ったのに、おじいさんやおばあさんはやさしく話しかけてくれたり教えてくれてすごうれしかった。心が温かい気持ちになった。ぼくのドキドキしていた気持ちもいつの間にかなくなっていた。ピククルというスポーツはバドミントンのコートでテニスのようなルールでうちあうスポーツです。ぼくはピククルをやったことがなくて初めてだったけど、おじいちゃんおばあちゃんたちがルールをていねいに教えてくれて、「初めてとは思えないほど上手だね！」

と、色んな人がたくさんほめてくれた。ぼくのおじいちゃんおばあちゃんが急に何人もふえたみたいだしあわせな気持ちになった。

ぼくのほかに夏休みでさんかしていた中学生のお兄さんがいた。ぼくの大好きな野球ベイスターズの話をしたり、ボールのなげ方を教えてもらうことができました。近所に住んでいてもなかなか出会うことがなかったり、話せることもないから、スポーツを通して地いきの色々な人と知り合い仲良くなることができすぎうれしかった。

それからは道ばたで会うとあいさつをしたり話をするようになった。

「またいっしょにやろうね。遊びに来てね。」と声をかけてくれる。

おばあちゃんの友達もぼくの友達もまたさんかするのが楽しみだ。

〈講評〉

学校や習い事等でなければ親しくなる機会が少ない日常の中で、新たな出会いが貴重な体験です。初めて出会う人で行う初めてのスポーツは、とても緊張したことでしょう。

でもそんな心配を他所に、優しく教えてくれて、ほめてくれるおじいさんやおばあさん。温かな人たちとの交流を通して、「おじいちゃんおばあちゃんが急に何人もふえたみたいだしあわせな気持ちになった」と考えられるのは、作者の心も素直で優しいからだと感じました。

☆☆☆銅賞☆☆☆

「よこはまのなぞ」

立野小学校 二年 郡司 倫

「このよこはまに まさるあらめや」これは、ぼくがよこはまし歌の中で一番好きな歌です。けど、むかしの言ばであまりいみがわかっていないから、なつ休みに図書かんでしらべました。この歌のいみは、「このよこはまにかてるみなどはあるだろうか。いやないだろう。」と書いてありました。「よこはまっつてすごい。よこはまに生まれてよかったな」と思いました。

ぼくが、よこはまし歌をはじめて聞いたのは、立野小学校の入学しきです。その時は、「この歌はなんだろう」と思いました。ぼくのお母さんも歌えます。ぼくのおじいちゃんも、おばさんも歌えます。どうして歌えるのかおじいちゃんに聞いたたら、「よこはまですだった人は、ほとんどの人が歌えるよ。」

と教えてくれました。ぼくが入学しきで聞いたみたいに、三人もむかし小学校でたくさん歌っていたそうです。「れきしがあつてすごい歌だな」と思ったので、なん年前にできたのかも調べました。一九〇九年にできたと書いてありました。森おう外さんというゆう名な作家の人が歌しを作ったそうです。

なつ休みによこはまスタジアムでベイスターズのしあいを見ました。十四点もとつてかつてたからすごうれしかったです。その時、ベイスターズのファンの人たちがなん回もよこはまし歌を歌っていました。「このよこはまに まさるあらめや」を大がっしょうします。歌のいみをしらべた後だったから、ファンの人が歌うのがすごかつこよく思えました。あとは、きつとファンの人の中には、よこはまですぞだつていない人もいるはずなのに、みんなが大きな声でよこはまし歌を歌つていて、びつくりしたけど、それもうれしかったです。

ぼくのまちのすきなところは、同じ小学校の友だちじゃなくても、ねんれいがちがくても、同じ歌を知っている人が多いところですよ。

〈講評〉

横浜市歌の一節から始まる書き出しに、「作者は横浜市歌に対してどのような思いをもっているのだろう」と引き付けられました。

分からない歌詞がある時に、自分から調べてみようと思ふと図書館へ出かける行動力が素晴らしいです。昔に作られ小学校で習う歌だからこそ、どの世代でも、どの小学校に通っていても、初めて会った人とだつて歌うことができる。そんな、市民みんなで共有できる横浜市歌の魅力が感じられる文章でした。

☆☆☆銅賞☆☆☆

「ぼくの大好きな公園」

立野小学校 三年 篠原 司

ぼくの住んでいる横浜市中区は、海も山もあって、いろいろな所から人が集まるとても素敵な町です。美しい場所や楽しい場所、みりよくな場所がたくさんあります。その中でも、ぼくが一番好きなのは根岸森林公園です。根岸森林公園はとても広くて、自然がたくさんあって、春にはきれいな桜が咲きます。ぼくは赤ちゃんの頃からこの公園でたくさん時間を過ごしてきました。家族と一緒に桜の木の下でお弁当を食べたり、お兄ちゃんにサッカーの練習をしてもらったり、友達と鬼ごっこをして遊んだり、春夏秋冬の季節もたくさん楽しい思い出があります。広い芝生に寝転がるととても気持ちがよくて、青い空とみどりと木を見ていると元気が出ます。自然がいっぱいなので、鳥や虫がたくさんいるのも素敵なおとこです。自然あふれる根岸森林公園は、ぼくの自まんの場所です。

でも、この素敵な公園でもときどきゴミが落ちているのを見かけます。きれいな緑の中に置きっぱなしになっているゴミを見つけると悲しい気持ちになります。みんなが気持ちよく使えるように、ぼくができることは、自分のゴミをちゃんと持って帰る事と、ゴミを見つけたら拾うことです。学校の友達とゴミ拾いをする日があってもいいなと思います。そうしたら、もっときれいな公園になるし、いろいろな人がまた来たいなと思います。そうしたら、美しい木や花を守るために、植物を大切にしたいです。時々ボールがぶつかって倒されてる花や、木登りをしてる子供たちを見かけるので、ぼく自身は木や花がいたむ行動はしないこと、友達とかにも注意ができるようにすることが大切だと思います。看板はあるけどあまり大きな字ではないので、公園のルールを子供たちにも分かりやすいように書くといいかもしれません。また、自然がいっぱいの所が本当にみりよくなので、みんなで花を植えるイベントなどがあったら、ぼくも家族と一緒に参加したいです。

根岸森林公園は、ぼくにとって大切な場所です。これからもずっときれいで気持ちのいい公園でいてほしいので、ぼくもできることをがんばっていきます。

〈講評〉

根岸森林公園の豊かな自然の中でのびのびと過ごす作者の様子が感じられます。しかし、そんな素敵な公園でも、ゴミのポイ捨てや植物が痛む遊び方がされていることに作者は気がきました。そして自分にできることはないだろうかと考えています。

一気に改善することは難しくても、見つけたゴミを拾ったり、自分や身近な友達が気を付けるよう声かけをしたりする小さな積み重ねが大事ですね。これからもぜひ、小さな努力を続けていってください。

☆☆☆銅賞☆☆☆

「このまちにあってほかのまちにはないもの」

みなとみらい本町小学校 一年 平澤 優奈

わたしはほんとしまえにこのまちにひっこしをしてきました。ひっこしがきまったときこのまちにはうみがあることをしって、とてもたのしみにしていました。

ひっこしをしてすぐ、まえのまちにはなかったものがこのまちにはあることにきがつきました。いくつかあるのでしょいかいします。

①道はばが広いこと

じてんしゃやつうこう人とすれちがうときに道をゆずりあわなくてもおろこことができる。今までは雨の日にかさをさしていると、いつもぶつかりそうになっていました。

②いどうとしよかん「はまかぜ号」がきてくれること

わたしはどくしよが大好きです。たくさんの本をよみたいので、としよかんをりようしています。このまちはとしよかんが少しとおい場所にあるので、あまり行くことができますが、はまかぜ号がきてくれるのでとてもうれいす。毎週きてくれたらいいのになあと思っています。

③うみがあること

わたしはうみを見たことがなかったので、広いうみと大きなふねにおどろきました。また、うみのかおりを知りました。うみ鳥やかもめがかわいかったです。

④ブランコがあること

前にすんでいたまちにはブランコが少なくてもだれかがのっていたので、わたしはいつものりたいたいな思っていました。このまちは公園が広くてブランコもたくさんあってとてもたのしいです。たくさんれんしゅうをして一人でブランコをこげるようになったことがとてもうれしかったです。

わたしはこのまちが大好きになりました。このまちは、ほかのまちにはないものがたくさんあります。まちたんけんをして、もっとたくさんみつけてみようと思います。

〈講評〉

他のまちと比べることで、道幅の広さや海、身近な公園の遊具等、普段何気なく目している自分の住んでいるまちの魅力に気付くことができましたね。移動図書館「はまかぜ号」は、もしかすると、知らない人もいるのではないでしょうか。

この作文がきっかけとなって、移動図書館の存在を知り、同じように楽しく利用する人が増えるのではないかと思いました。これからも過ごしていく中で、ぜひまちの好きなところをもっと見付けてみてください。

小学生B部門

☆☆☆ 金賞（中区選挙管理委員会委員長賞）

☆☆☆

「歓声の影で」

立野小学校 六年 宮崎 七海

「誰かの楽しみは、誰かの迷惑かもしれない。」

そのことを強く感じたのは、先日横浜で行われたあるアーティストのライブに参加した時だった。会場は大歓声と音楽、そして色とりどりのペンライトの光に包まれ、私は夢のように楽しい時間を過ごした。特に最後の一曲で、会場全体が心をひとつにした瞬間は、胸が熱くなり、一生忘れられない体験になった。

ところがその夜、SNSには「騒音で眠れなかった」「周辺住民には迷惑だった」という書き込みが並んでいた。私は「自分が楽しんでた裏でこんなことがあったんだ」と、とても驚いた。同時に、楽しさと迷惑が同時に存在していたことに少し戸惑いを感じた。楽しさの裏に別の人にとつての困りごとがあったのだ。

考えてみると、これはライブだけに限ったことではないと思う。大きなイベントやお祭り、花火などは、参加する人にとつては楽しいものでも、近くで暮らす人には迷惑になることがある。さらに私自身も、電車の中で大きな声をだして話している人に出会ったことがある。その時は落ち着いて本を読めず、とても迷惑に感じた。また、道端でスケートボードをしている人を見た時も、通行人が危ないと感じることがあった。こうした経験からも、自分にとつての「楽しみ」が、すぐそばの誰かにとつては「迷惑」になることを知った。

このことから私は、「楽しみ」と「迷惑」はすぐそばにあることに気づいた。そして大切なのは、ただ楽しむだけでなく、「自分の行動が周りの人の迷惑になっていないか」を考えることだと思う。そうすれば、自分も周りも気持ちよく毎日を過ごせるはずだ。

これから私は、自分の楽しみだけを考えるのではなく、相手の立場になって考えることを大事にしたい。たとえば、夜中には大きな声をださないようにする、地域のイベントやお祭りでは、なるべく自分でゴミを持ち帰るように心がけたい。また、友だちと歩く時も、道いっばいに並んで歩くのではなく、他の人も通りやすいように歩くことを意識したい。こうした小さなことでも、周りの人にとつては大切な思いやりになるはずだ。

「楽しみ」に「迷惑」はつきものであって、完全に切りはなすことはできない。だからこそ、思いやりを持つことが必要だ。私は、心から楽しみを分かち合い周りの人と笑顔で過ごしていきたい。そのためには、あのライブの夜に学んだことを忘れずに、私はこれから、自分の行動をすこしずつ工夫していきたい。そうすれば、みんなが、安心して笑顔で暮らせる街になると思う。そしてそのような街でなら、私は自分の楽しみを笑顔で語り合い、周りの人よりも温かいつながりを持って生きていけると信じている。

〈講評〉

「歓声の影で」という題名が内容に非常によく合っており印象に残りました。作者はライブでの体験を通して楽しさの裏側には迷惑が存在する事に気づき、その気づきを思いやりへつなげて話を展開しています。

文章構成もよく考えられていると感じました。またその視点から、今回のテーマである「より良いまちをつくるために私たちができること」を想像し、考えを深めている点に感心しました。

今後は、小さな思いやりや気づかいの大切さを意識することで、誰もが気持ちよく生活できる街に少しずつ近づいていけると思います。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「より良いまちをつくるために私たちにできること」

本町小学校 五年 新保 結衣

私が住んでいる横浜市中区には、山下公園、中華街、赤レンガ倉庫など、たくさんの方が訪れる観光地があります。海が見えて景色もきれいで、おいしい食べ物のお店も多く、とても魅力的な町だと思います。そんな中区の町が、私はとても大好きです。

しかし、先日家族と山下公園を歩いていたとき、ベンチの近くにお菓子のゴミが落ちていたのを見つけました。さらに、花壇の中にはジュースのペットボトルが投げ込まれていて、がっかりした気持ちになりました。せっかく観光に来てくれている人がいるのに、ゴミが落ちていたら中区の町の印象が悪くなってしまうのではないかと思います。

そのとき私は、「町をよくするとは、どういうことだろう」と考えました。道路や建物を新しくすることも大切ですが、それだけでは本当に良い町にはならないと思います。毎日そこに住んでいる人たちが、気持ちよく暮らせるようにするには、私たち一人ひとりの心がけが必要で、もっと大切にすれば良いのではないのでしょうか。

では、小学生の私たちにできることは何でしょうか。私は、まず「あいさつ」が大切だと思います。昼、マンシヨンの人に「こんにちは」と声をかけるだけで、その場の空気が明るくなります。笑顔であいさつをすることは、人と人とのつながりを生む第一歩です。

また、公園や道路などの公共の場所を大切に使うことも、私たちにできることです。遊具をていねいに使ったり、ゴミを持ち帰ったりすることは、すぐにできる行動です。さらに、地域のイベントや清掃活動に家族と参加することで、町へ関心が高まり、「自分の住んでいる町を大切にしたい」という気持ちが強くなると思います。

私は父に、「選挙で選ばれた市長さんや、区長さんが、町をより良くするための計画を立てているんだよ。」

と教わりました。でも、そうした人たちにまかせるのではなく、私たち一人ひとりが「こんな町にしたい」という思いを持つことも大切です。自分の意見を家族や友だちと話し合うことも、町づくりの第一歩です。

横浜市中区は、昔から外国との交流がさかんな町で、多くの文化や、人が行きかう場所です。だからこそ、いろいろな考え方や違いを認め合い、だれにとっても住みやすく、安心して暮らせる町であってほしいと私は思います。

私はこれからも、ゴミを拾う、あいさつをする、地域のことに関心をもつ、といった小さなことから行動していきたいです。いつか大人になったときには、「この町のため」に何かしたい」と思える人になりたいです。

より良い町をつくるには、誰かがつくってくれるものだ、とってはいけません。私たち一人ひとりの行動と心がけが町の未来をつくっていくのだ、と私は心から信じています。

〈講評〉

町を想う温かい気持ち伝わってきます。魅力あふれる町をより良くするために、今の自分ができることをよく考えられています。人任せにするのではなく「こんな町にしたい」と一人ひとりが思いを持つこと。身の回りの人と対話すること。とても大切なことですね。このような考え方が広がればもっと魅力あふれる中区になっていきそうですね。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「ほんとうの便利なまち」

本牧南小学校

五年

疋田 花



わたしは、よい町というのは、建物がきれいで、便利なところにある町ではないと思います。そこに住んでいる人が毎日安心してくらせて、笑顔があふれている町が本当のよい町だと思います。

わたしの父は車いすを使っています。でかけるとき、歩道のだんさやせまい道、信号のない横断歩道で困ることがあります。そんなとき、道をゆずってくれたり、ドアを開けてくれたりする人がいると、とても温かい気持ちになります。人のやさしさによってくらしやすさは大きく変わるのだと感じます。

町をよりよくするためには、困っている人や小さな声にも耳をかたむけることが大切です。そのためにあるのが選挙だと思います。

わたしは、まだ投票はできませんが、できることがあります。父といっしょにでかけたときに感じたことを家で家族に話すことです。

「あそこの歩道にスロープがあるといいね。」

「おしボタン式の信号がもっとふえたら安心だね。」

と話す、母は、

「選挙でそういうことを考えてくれる人を選びたいね。」

と言ってくれました。小さな意見でも、家族を通してまちづくりのわだいに変わります。

また、選挙やまちづくりのわだいにきょうみをもつことも大事です。ニュースや町内会の回らん板、まちをよくするための計画や話し合いが書いてあります。祖母は

「こういう会議で決まることが毎日のくらしにつながるんだ。」

と教えてくれました。わたしはそれを聞いて、選挙は大人だけのものではなく、わたしたち子どもの生活にもつながっていると知りました。

よい町をつくるには、一人一人の思いや行動が必要です。ごみを拾ったり、あいさつをしたり、人を助けたりすることも大切ですが、しょう来の自分の一票で未来の町を選ぶことができます。わたしは、大きくなったら、父が安心してかけられる町、だれもがくらしやすい町にするために、選挙に行って、自分の意見を形にしたいです。

選挙は、町をよりよくするための第一歩です。わたしもこれから、家族や友達と町のことを話し合い、未来のまちづくりに参加できる大人になりたいです。

〈講評〉

選挙の意義を理解し、家族や友人と町をより良くするために話し合う姿勢が素晴らしいです。「一票」の重みや投票の責任を自覚し、どんな町にしたいかを日頃から考えることは、主体的な市民として大切な行動です。投票を通じて自分の思いを形にしようとする意欲がしっかり表れており、社会への関心と責任感が感じられます。

☆☆銅賞☆☆

「あいさつが広げる幸せの輪」

立野小学校 四年 望月 緑太

ぼくは、母の日花を買いに行きました。その帰り道、たくさんの人が歩きスマホやおしゃべりをしている中で、知らないおばあさんが元気よく「こんにちは」と声をかけてくれました。ぼくは、いつも家族のためにがんばってくれているお母さんに感謝の気持ちを伝えるために、がんばっておごづかいをためて買った花のことを話しました。おばあさんはとてもよるこんでくれて、「えらいねー。お母さんきつとよるこぶよ。さようなら。」と言ってくれました。なんだかむねがいっぱいになって、ニコニコしながら家に帰り、お母さんに花をわたすことができました。

それからしばらくして、ゴミ捨てに行ったときあのおばあさんにまた会いました。今度はぼくから元気よく「こんにちは！」と言ったら、おばあさんは「こんにちは、ゴミ捨てのお手伝いをして本当にえらいねー」と、またえがおでほめてくれました。ぼくはとっともうれしくなって、すれちがうほかの人にも「こんにちは」とあいさつをしました。するとその人もえがおで「こんにちは」と返してくれたんです。あいさつをするとなんだか心が温かくなるのを感じました。

夏休み、じいじとばあばの家がある静岡の清水に遊びに行きました。じいじとカフェにランチを食べに行くと、ぐうぜんじいじのお友達がいきました。ぼくが元気よく「こんにちは」とあいさつすると、じいじのお友達もえがおで「こんにちは」と返してくれました。そこから、みんなで楽しくお話が始まりました。ぼくのお兄ちゃんのことや、ぼくがサッカーをがんばっている話などをすると、お友達も楽しそうに聞いてくれて、とてもおいしいランチを食べることができました。帰りぎわ、お友達は「ありがとうね」とぼくに言ってくれました。あいさつひとつで、こんなに楽しく幸せな気持ちになれるんだなど、このときあらためて思いました。

ぼくは、あいさつにはすごい力があるって気づきました。あいさつをすると、みんながえがおになって親切な気持ちになれる。親切な気持ちは、どんどん広がっていきます。たとえば、困っている人がいたら手伝ったり、町のゴミを拾ったり、町のルールをみんなで守ったり。おたがいが助け合うことで、もっとたくさんの方がえがおになって、すがすがしい気持ちになれます。そして、その気持ちは、みんなを幸せにしてくれるはずです。

だから、ぼくはこれからもあいさつを大切にしていきたいです。あいさつが広がればきっと町中の方がえがおになり、もっともっと住みやすい、やさしい町になっていくと信じています。もしあいさつをしたら、どんな新しい出会や楽しい出来事が待っているか、ワクワクします。

〈講評〉

商店街で出会った地域の方との関わりを通して、あいさつがもつ力に気づき、その良さを広げていこうとする思いがよく伝わってきます。あいさつが温かい気持ちを生み、互いに助け合おうとする親切さにつながることを実体験から捉え、よりよいまちづくりに生かそうとしています。その気づきが、地域への関心や自分にできる行動を考える姿勢につながっている点がとてもすばらしいです。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「わたしたちがつくる未来のまち」

立野小学校 五年 藤井 悠仁

わたしは、多くの文化が入りまじり、緑があり、都会的な所もある横浜市が大好きです。学校があつて、友達が居て、家族と一緒に暮しているこの町は、わたしにとつてかけがえのない大切な場所です。今回、横浜市をより良い町にするために、わたしたちができる事を考えました。

まずは、一人一人があいさつをする事が一番始めやすいと思います。日頃から町の人たちと声をかけ合えば、人のつながりが生まれ、何かあつた時にも助け合いやすい雰囲気になります。あいさつまでできなくても、目が合ったら少しニコツとするだけでもいいと思います。そうすることで町の様子が明るくなり、暮しやすい町になるはずですよ。小さなことでも、みんなで力を合わせれば横浜市はもっと良い町になると思います。

つぎに、町をきれいにすることも大切です。公園や道ばたにゴミが落ちていると、せっかくの景色がだいなしです。前に、学校の行事でそうじした事があります。最初はめんどろだなど思つたけれど、ゴミ袋がいっぱいになるとやりがいを感じ、町がきれいになってとても気持ちよくなりました。自分たちの行動でも町を変えられると感じて、嬉しい気分になりました。だからこれからも、ポイすてをせず、見つけたゴミを拾うようにしたいです。さらに、近所の町内会のお祭に参加したとき、地域とのつながりを感じました。わたしは友だちと一緒に出店のお手伝いをしましたが、知らなかった近所の人とも声をかけ合い、お客さんに「ありがとう。」

と言われてとてもうれしくなりました。みんなで協力してお祭りを盛り上げたことで、「わたしたちは同じ町に住む仲間なんだ」と思えました。お祭りのあとには片づけてゴミ拾いもしました。疲れたけれど楽しくて、地域に役立てたことが嬉しかったです。こうした体験が、人と人をむすびつけ、安心してくらせる町につながるのだと思います。

また、環境を守ることも大事です。電気や水をむだにしないことは、地球を大切にすることに繋がります。わたしは前に、電気をつけてっぱなしにしようと思いましたが、今は使わないときは消すと気をつけています。水も流しっぱなしにしないよう心がけています。小さな気くぼりでも、多くの人がつづけければ大きな力になるはずですよ。

このような、より良い町をつくるためにわたしたちができることはたくさんあります。あいさつをすること、ゴミをひろうこと、地域のお祭りで協力し合う事、電気や水を大切にすること、小さな行動の積み重ねが町を変えていく力になります。

これからも自分にできる事を毎日続けたいと思います。そして、友だちや家族と協力して、みんな安心してくらせる横浜市をつくっていききたいです。未来のわたしたちの町が、もっとすてきな場所になることを願っています。

〈講評〉

自分が住む町に対する思いが文章全体からあふれるほどに伝わってきます。挨拶やゴミ拾い、お祭りへの参加を通して、「同じ町に住む仲間」と実感したこと。そこから安心して暮らし続けることのできる町を目指して自分にできる事を実践しようとしていること。その姿がすばらしいです。これからどのように、町がより良くなっていくのか楽しみですね。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「自分の一票に責任をもつ」

間門小学校 六年 富川 尚輝

夏休み中、高校三年生で十八才になったお兄ちゃんが初めて選挙に行きました。僕はまだ小学生なので投票はできませんが、お兄ちゃんの後ろについて行って投票所の中の流れを見学しました。

受付では名簿で名前を確認し、投票用紙を受け取ります。その後、記入台で候補者の名前を書き、投票箱に入れます。思っていたよりも静かで、みんなが真剣な顔で投票していました。投票が終わると、お兄ちゃんは、投票証明書を受け取りました。その小さな紙を手にしたお兄ちゃんは、なんだか大人になったように見えました。僕は自分もいつかこんなふう投票するんだと思いました。

家に帰ってから、お父さんとお母さんがお兄ちゃんに

「はじめての投票どうだった？」

と聞いていました。お兄ちゃんは

「正直、誰が立候補しているのかよく分からなくて、なんとなく投票してしまった。」と反省していました。投票すること自体はとても大事ですがただ行くだけでは十分ではないのだと気づきました。お兄ちゃんの言葉を聞いて、僕は投票の前に、候補者がどんな考えをもっているような政策を実現しようとしているのかきちんと調べる事が必要なんだと思いました。

考えてみると、選挙はただ一票を入れるだけではなく「より良いまちを作るための大切なチャンス」なのだと思います。学校や道路、図書館や病院など、僕たちの生活に関わる事は政治で決められています。だから、投票する人が誰を選ぶかで、まちの未来は大きく変わります。もちろん、立候補する人や政治を行う人の責任もありますが、投票する側にも責任があるのだと感じました。

僕はまだ小学生なので投票はできませんが、今から出来る事もあると思います。たとえばニュースを見て世の中の出来事に関心をもったり、友だちや家族と「こんなまちになつたらいいね」と話しあったりすることです。そして、十八才になった時には、候補者の事をよく調べ、自分の考えに近い人を選んで投票したいです。

お兄ちゃんの初めての投票をみて、僕は「より良いまちを作るためには、投票することがスタートであり、その一票に責任を持つことが大切だ」

と学びました。僕も将来、自分の一票でまちをより良く出来るように、今から考える力を育てていきたいです。

〈講評〉

初めての選挙を体験したお兄さんの姿を通して、自分の将来につなげて考えられていますね。選挙は町をより良くしていくための「チャンス」と捉え、投票する側にも具体的に書かれているため、そのときに感じた思いがよく伝わってきました。また、「投票する側の責任」に気づき、今の自分にできることまでしっかり考えられているところがすばらしいです。

中学生部門

☆☆☆ 金賞（中区明るい選挙推進協議会会長賞）☆☆☆

「選挙の投票率を上げるには」

港中学校 一年 斉藤 暖弥

「このまえの横浜市長選挙って、中区の投票率は三十九%だったらしいよ。」
「それって半分以上の人が選挙に行っていないってこと？」

これは夏休み中の父とぼくの会話です。父は高校で社会の先生をしていて、普段から選挙の投票率のことを気にしています。ぼくも選挙の作文コンクールに応募しようと思っていたので、父の話を聞いて市長選挙の投票率の低さにびっくりしました。そこでこの夏、ぼくは父と「横浜市長選挙の投票率を上げるにはどうすればよいか」を一緒に考えることにしました。

ぼくたちは、市長選挙の投票率が低い一番の理由は、横浜市の政治や市長選挙の立候補者のことをよく知らない人が多いことにあるのではないかと考えました。実際に、横浜市の政治や市長選挙のことはテレビで取り上げられることはないかと思いましたが、情報が入りにくくて、「よく知らないから選挙に行かない」という人が多いのではないかと思います。だから、ぼくはその対策として「SNSを積極的に活用する」ということを提案します。市長選挙の時に、SNSを通じて選挙に関する情報を効果的に配信すれば、若い人たちにもっと興味を持ってもらえらると思います。テレビで市長選挙のことを取り上げる時間はそんなに取れないだろうし、そもそも若い人たちのテレビ離れは進んでいます。だから、市長選挙のことを多くの人に知ってもらうためにはSNSを活用することが有効だと思います。父にこの話をしたところ、父からは

「市長選挙に興味を持つ人が増えるのはいいことだけれど、できれば横浜市の政治のことを正しく理解した上で選挙に参加する人が増えるといいよね。」

と言われました。たしかに、市長選挙の結果はぼくたちの生活に大きく関係する大事なことなので、興味本位で選挙に行つて適当に投票する人が増えるのは困ると思いました。そこで、ぼくは横浜で行われている政治のことを正しく理解するための対策として「学校の授業や行事を活用する」ということを提案します。具体的には、小・中学校の授業の中で、横浜市で行われている政治のことだけを詳しく勉強する時間をもっと増やしたり、学校の行事で市役所に行ったり、市の議員の人たちと話をする機会を作ったりしたらよいと思います。そして、高校では十八歳成人になる前にきちんと選挙のしくみを勉強することが必要だと思えます。十八歳になる前から学校の授業や行事で横浜市の政治のことと選挙のしくみをしっかり学び、十八歳になったらSNSを活用して選挙の情報を集めて投票に行く、そういう若い人たちが増えるとよいのではないかと考えました。

この夏、普段はほとんど話題にしない政治や選挙のことを父とまじめに話したことで、政治や選挙のことをもっと知りたいと感じるようになりました。今度は、学校の友達ともそういう話をしてみたいと思います。

〈講評〉

中学生部門は例年通り「選挙について考える」というテーマでしたが、今年の金賞受賞作品は、横浜市長選挙の中区の投票率の低さに驚いた筆者が投票率をあげるためにはどうすればよいかを考える中で、普段はほとんど話題にしない政治や選挙のことを父親と話し自分の考えでまとめあげた作品です。

SNSの積極的な活用や小中学校の授業の中での勉強はもちろんのこと、市役所で議員の方達との会話を通じて、選挙に行く若い人達が増えることを希望する筆者の思いや父親との会話の中で考える姿勢が審査委員全員の高評価につながったものと考えます。

今後、学校の友達と政治や選挙について語り合ってくれることをとても楽しみにしています。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

「今の私たちができること」

仲尾台中学校 一年 坂井 悠夏

私はまだ選挙権を与えられていないため、直接的に政治に参加することができません。しかし、間接的に政治に参加することはできます。例えば、ニュースやインターネットなどで政治について深く理解することです。私はこれを知った時、「本当にこれだけで政治に参加できているのかな」と思いました。しかし、今政治について理解することができたのならば、将来選挙権を与えられた時にもその知識を活かせるため、決して無駄にはならないことに気が付きました。

今年の八月、横浜市長選挙がありました。そこで私は驚いたことがあります。投票率が約四十二パーセントだったことです。投票率というのは選挙権を与えられている人だけで考えた割合のため、これほど投票しないものかと思ひ、しない理由を調べてみました。その結果、「政治に興味が無い」「情報が多く難しい」「誰に投票したら良いのか分からない」「自分の一票で世の中は変わらない」などといった様々な理由でした。私はこのような事を踏まえて、より一層今のうちから政治について理解しておくことは大切だと思いました。それにより参加しない理由を減らすことができると思うからです。また、一票入れたところで何も変わらないと考えている人が多くいますが、私はそのように思いません。なぜなら、一票だけでは変わらないと考えている人が多く、その人たちが選挙に参加していかないからです。その参加していかない人たちが投票したら、選挙の結果が変動することさえあると思うので、積極的に投票してほしいです。また、選挙に参加せず、今の政治に不満を持っている人が多くいます。私は、そのような人たちが日本を変えたいと強い思いを持ち、投票してみてもいいです。

どちらにしても、行動することはとても大切です。行動しなければ、結果が変わることは百パーセントありません。そのため、私は今から政治に参加していきます。

しかし、投票率が最も低いのは二十代であり、若い世代から政治への関心が低くなっていることが現状です。この状況を改善するためには、インターネットが必要だと思います。最近、スマートフォンが大きな情報源になっています。それを利用して投票を促し、広めることができたなら、投票率は若い世代だけでなく、全体的に上がっていくと思います。ただインターネット上にはデマ情報も多いため、正確な情報をしっかり確認することが必要です。

このように、選挙権が与えられていない私たちでも政治に参加することができ、それを周りに広めていけたら、投票率を上げることができてでしょう。その結果、日本はより良く変化していくかもしれないと思います。既に選挙権が与えられている人も遅くありません。未来の自分のために、政治に参加していきませんか。

〈講評〉

本作品では、まだ選挙権を与えられていない中学生でも間接的に政治に参加できる方法として「政治について深く理解すること」を挙げています。夏に行われた横浜市長選挙での投票率の低下を指摘し、投票率が低い原因も分析しています。また、政治について深く知ることができた後は、勇気を出して行動に移すことの大切さにも言及しており、独自の方策も挙げているところが素晴らしいです。多くの市民に、政治について正しく理解する必要性が分かりやすく伝わる作品だと思います。

☆☆☆ 銀賞 ☆☆☆

『無関心』と「一票」

仲尾台中学校 一年 大井 貴喜

「どうせ僕の一票なんて、何も変わらない。」

ある日、ニュースで選挙の投票率の低さが話題になっていた。街でインタビューを受けた若者がこう答えていた。その言葉が、なぜかずっと耳に残っている。

確かに、一人の一票で世の中すべてが変わるわけではないかもしれない。でも、本当に「意味がない」のだろうか。

選挙とは、誰かにまかせることではなく、「私」が未来を選ぶ行動だと思う。だからこそ、投票に行かないということは、自分の意思を手放すことだ。しかもそれは、沈黙という形で「無関心」を表す一票になってしまう。

僕はあるとき祖母からこんな話を聞いた。戦後まもなく、日本で女性が初めて選挙に参加できた日のことだ。祖母は、

「あの日、私たちがどれだけ誇らしかったか、今の若い子にも伝えたい。」
と言っていた。

選挙権が「当たり前」ではなかった時代があった。その苦労のうえに、今の僕たちの一票はある。投票しない自由もある。でも、その自由は過去の人々が命がけて勝ち取ってきたものだということを、私たちは忘れてはいけない。

SNSでは、政治に対する不満や意見があふれている。でも、それだけでは社会は変わらない。文句を言う前に行動しよう。投票所へ足を運ぶことが、最初の一步だ。

選挙は、一人の力ではなく、多くの人の想いを束ねる力です。港町・横浜から生まれる一票は、この街をさらに魅力ある場所へと成長させる原動力になります。赤レンガ倉庫に灯る夜景も、山下公園から見えるベイブリッジも、市民の思いと努力の積み重ねで形づくられてきました。

開港の時代から、横浜は新しい文化や技術を受け入れ、発展してきました。その歩みの中で、関東大震災や戦災という困難もありましたが、市民は何度も立ち上がり、街を再び輝かせてきました。これからの横浜も、防災や環境保全、観光や産業の発展など、私たちの思いによって姿を変えていきます。

僕は、未来の横浜をもっと安全で美しく、誰もが誇れる町にしたい。そのために、一票を大切に作る大人になりたいと思います。港の風に吹かれながら、横浜の歴史と未来をつなぐこの街で、僕はそのバトンをしっかり受け取りたいのです。

〈講評〉

選挙とは「私」が未来を選ぶ行動であるとした上で、選挙権があるにもかかわらず投票に足を運ばないことについて「沈黙」という形で『無関心』を表す一票になってしまふ。」と述べています。このような言葉から、投票率の低下対策への強い責任感を感じます。また、未来の横浜をもっと安全で美しい街にしたいという、横浜への愛情が感じられる点も評価できます。女性が初めて選挙権をもった日のことを忘れず、横浜の明るい未来に向けてバトンを繋いでいきましよう。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「投票でつながる輝く未来」

仲尾台中学校 一年 稗嶋 恵都

最近、駅前で選挙活動をしている人達をよく見かけます。でも私は、「まだ六年も先の事だし」と思ってしまったって、あまり選挙に興味がありませんでした。最近は、「どうせ誰がなっても変わらない」「投票に行くのがめんどくさい」

そんな言葉を耳にするのも少なくありません。

でも、本当にそれでいいのでしょうか？私は今の若者の投票率が低いことを知って、驚きました。なぜなら、若者の声が政治に届かなければ、私たちの未来は、私たち自身で決めることができなくなってしまうからです。では、なぜ若者は選挙に行かないのでしょうか。理由は色々あると思いますが、私が考える理由は三つです。一つ目は、政治が遠い存在に感じるから。ニュースで政治の話も聞いても身近に感じられないことが多いです。難しい言葉や、複雑なことで、関心をなくす原因になっているかもしれないからです。二つ目は投票しても変わらないと思っっているから。過去の選挙の結果や行動を見て、「どうせ誰がなっても同じ」と思っっている人の方が多いのかもしれない。三つ目は情報が不足しているから。候補者の情報や政策を聞く機会が少なく、誰に投票すればいいのか分からない人も、いると思います。もし私が投票する側だったら、どんな人に投票したいか？それは、私たちの声に耳を傾け、具体的に応えてくれる人です。例えば教育費の負担を少なくしてくれる人。地球温暖化対策に積極的に取り組んでくれる人。そんな人に未来を託したいと思っっています。どんな意見だと任せたくなるのか。それは実現可能な意見です。具体的な提案があると期待できると感じます。また、地域のための活動を考えている人も、投票したくなります。

私は、若者の投票率を向上させるための行動を考えてみました。一つ目は地域行事などに、参加してみる。地域イベントに参加することで、地域住民と交流を深めることができます。二つ目は、SNSを使って、発信してみる。今一番若者の身近にあるのがSNS。SNSを使って発信することで、多くの人に、候補者の情報や政策を届けることができるからです。これらの行動を通して、少しでも多くの若者が政治に関心をもち、選挙に参加する、きっかけができると思っっています。もし、国民全員が投票したら多くの意見が尊重され、若者だけではなく、様々な立場の人々の意見でより住みやすい社会が実現するはずです。私たちの未来は、私たち自身で決めるものです。選挙は、そのための大切な一歩です。私たちみんなでより良い社会を築いていきましょう。

〈講評〉

若者の声が政治に届かなければ、自分たち自身の未来を自分たちで決めることができなくなってしまうという主張に強い意志を感じます。若者の投票率が低下している要因を三点分析し、さらには投票率を向上させるための具体的な行動策を挙げています。実現可能かつ具体的な政策を公約として掲げている候補者を選ぶことの重要性が分かりやすいです。若者の声を政治に届ける第一歩となる作品だと思っいます。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「若い人たちの投票率と政治教育」

港中学校 二年 大内田 陽菜子

私は今回、「選挙について考える」というテーマをもとに、「若い人たちと選挙」について考えてみることにした。若い人たちにスポットライトを当てた理由。それは、中区の年齢層別投票率というグラフを見たときに、二十代あたりの投票率が低かったからだ。

ではまず、なぜ若者の投票率が低いのか。その原因として、忙しさや、政治や投票をまだ他人事として捉えてしまうから、などといったことが考えられる。しかし、私は、選挙による影響を一番受けやすいのは、仕事などをして社会をまわしてくれている若い人たちだと思っっている。だから、少し遠く感じてしまう選挙にも、参加した方がいいと私は考える。

他にも、若い人たちの投票率が低いのは、選挙そのものに対する理解が浅いからではないだろうか。ここで、二つ、海外の事例を紹介しようと思う。

一つ目は、英国に属するスコットランドの事例だ。二〇一四年に行われた、スコットランド独立住民投票。この選挙では、十六歳から投票することができ、多くの若者も参加した。結果、十六歳から十七歳の投票率が七十五パーセントに届き、十八歳から二十四歳の投票率である五十四パーセントを上まわった。

この高い投票率の裏にあるのは、学校での政治教育だ。授業で政治的なテーマを扱ったり、教師が中立的に政策などを教えてくれることにより、若い人たちも投票しやすいのだ。

次の事例はスウェーデンだ。スウェーデンは選挙全体の投票率が毎回八十パーセントに届くほど高いことで有名だが、若い人たちの投票率もかなり高い。十八歳から二十四歳までの若い人たちの投票率は七十パーセントを超えていて、これもやはり理由は学校での政治教育だ。スウェーデンでは政治教育がカリキュラムに「社会科 (Samhällskunskap)」として組み込まれていて、そこで政治の仕組みなどを学ぶ。それにより、若い人たちでも、選挙への意識が高いようだ。

また、投票がしやすい環境も整えられていて、前日投票や郵便投票などの充実も、高い投票率の秘訣なのではないだろうか。

若い人たちだって、義務教育の時点で政治や投票に触れておくと、投票率が高くなるということが、海外の事例などをもとに分かった。私は、小さい頃から政治や投票などに触れ、選挙を「他人事」ではなく「身近なもの」として捉えることができれば若い人たちの投票率も、もつと上がると考える。そのためにもやはり、学校での政治教育は今後の日本にとっても大切になってくるのではないだろうか。

〈講評〉

若者の投票率の低さの原因として、政治を他人事として捉えてしまう実態を挙げています。そこで本作品では海外の事例を挙げ、若者の投票率低下の対策を具体的に打ち出しています。特に、タイトルにもあるよう「政治教育」については、非常によく調べていることが伝わり素晴らしいです。まだ選挙権をもたない年齢の子どものころから、学校の授業などで政治に触れ、関心をもつことは大きな効果があるかもしれません。

☆☆☆ 銅賞 ☆☆☆

「選択の責任」

港中学校 二年 高木 希和

私が所属している吹奏楽部では毎年の秋の終わり頃、仮引退を控えた三年生の後を継ぐ次の部長や副部長などの様々な役職が二年生から投票によって選ばれます。たとえ、自分にやりたい役職があり、立候補したとしても日頃からの行いが悪く、他の部員からの信頼がなければその役職につくことはできません。そのため普段から広い視野を持ち、部員を助け、信頼を得ることがとても大切になってきます。

そして、そういう努力をしている人を自分の目で見て、この人だったら任せられると自分自身で判断してから投票をすることが選挙においてとても大切なのです。

この部内選挙で、私は正直言ってあまり真剣に人を見ることができていませんでした。何となく「この人がこの役職には合う気がするなあ」と具体的な理由も言語化できずただただ勘で投票した人もいました。

ですがもしそこで投票した人が全く仕事をせず、遅刻や忘れ物が多く、やるべき事もひとつもやらないような人だったら私たちはどうするのでしょうか。その人がいないところで陰口を言う。そのまま何も言わずに傍観する。私はどちらも無責任だと思います。その人がどれだけ仕事をしなくても自分で投票し、その人が選ばれたのだから私たちには責任があります。であれば、その人に真面目に仕事をして欲しいときちんと話をしたり、正々堂々と向き合うことが大事だと思います。

ですがそうやって向き合ってもその人が変わらせずに仕事をサボっていたら。それは最初からその人に投票しなければよかったのです。普段から周りを見て誰が適材かきちんと見分けられていたら、真面目に考えていたら、何となくで選ばなかったら、その人がその役職につくことは最初から無かったのではないのでしょうか。

このことから私は「何かを選ぶ時は必ず責任が伴うので、きちんと言語化できるような具体的な理由を持ち、後悔しない選択をすることが大切なのだ」と学びました。

これはきっと国民の代表を決める選挙でも変わらないのだと思います。どのような活動経歴を持っているか、なにを公約としているのか、考え方は自分と似ているのか。様々な視点からその人のことを見て、最も信頼ができる人に投票する。投票人数が多くなっただけでそのほかはあまり違いがないと思っています。

二〇二二年から一八歳以上の人々に選挙権が与えられるようになりました。ですが年齢に関わらず投票した責任はついてきます。そのことを自覚して真剣に考えてから投票をすることを心がけることが、この世界をよりよいものにしていくのではないのでしょうか。

〈講評〉

選挙による投票で何かを決めるとき、そこには必ず選択する側としての責任が伴うことを、作者自身の部活動内選挙での経験をもとに分かりやすく説明しています。また、信頼できる候補者を自分の目で見て確認して決めていくことの重要性や、きちんと言語化できる理由をもって投票をすることの重要性についても言及しており、素晴らしいです。自身の経験を国政選挙の在り方にも応用して考えており、「信頼」に基づく投票の大切さがよく伝わってくる作品だと思います。

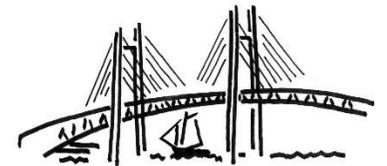
審査をふりかえって

小学生A部門のテーマは「わたしのまちのすきなところ」です。まちの魅力が生き生きと伝わり、中区へのあたたかな思いが伝わってくる、そんなすてきな作品が多くありました。自然やまち、人との出会いを大切にすることが素直に表現されており、地域の人々とのつながりを感じさせる場面もありました。読んでいてとても心が温かくなりました。これからも、まちの新しい発見や人とのふれあいを通して感じたことを、自分の言葉でさらに広げてみてください。

小学生B部門のテーマは「より良いまちをつくるために私たちにできること」です。どの作品にも「より良いまちをつくりたい」という思いが表現されていました。思いやりやあいさつを大切にすることが、人と人をつなぎ、安心できるまちづくりにつながります。また、環境を守る工夫や選挙の一票の大切さに触れた考えからは、広い視野をもって未来を考える姿勢が感じられました。身近なことから始める行動力と、社会全体を見渡す視点の両方をもつことが、より良いまちづくりへの第一歩につながるのかもしれない。

中学生部門のテーマは「選挙について考える」です。多くの作品で投票率の低下に触れ、選挙への関心を高める必要性を考えている点が印象的でした。選挙権をもたない今、家族との会話や自身の体験、調査結果等を踏まえて自分にできることを考察していました。横浜市の未来を見据えた視点からは地域への愛着を感じさせ、具体的な提案も考えられていました。政治や社会の仕組みを理解しようとする努力は、将来の主體的な参画につながります。全体として、未来への思いが表現され、問題意識と行動意欲がよく表れた作品群でした。

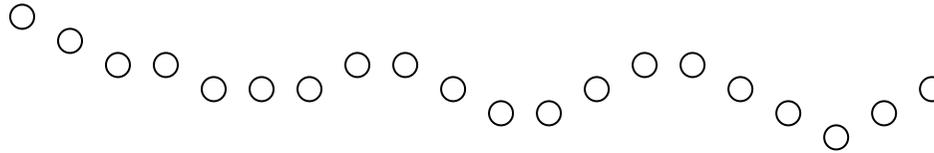
第45回を迎えた本コンクールにおいては、各部門でテーマに真剣に向き合い、地域や社会への思いを丁寧に綴った作品が寄せられました。今後も、中区のまちづくりを考える意識が一層広がっていくことを願っています。



■作品の選考・講評■

※役職名は執筆当時のものです。

横浜市立大鳥中学校副校長	二瓶 武志
横浜市立大鳥中学校教諭	河野 大樹
横浜市立みなとみらい本町小学校教諭	田中 もえの
横浜市立山元小学校教諭	飯田 悠花
横浜市中区明るい選挙推進協議会会長	嘉代 哲也
横浜市中区選挙管理委員会委員長	福井 正隆
横浜市中区長	永井 由香



第45回

中区明るい選挙推進作文コンクール入賞作品集

令和8年3月発行

発行

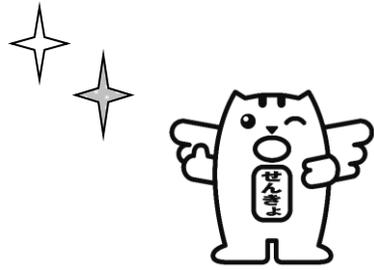
中区明るい選挙推進協議会／中区選挙管理委員会／中区役所

〒231-0021

横浜市中区日本大通35番地

TEL 045-224-8119

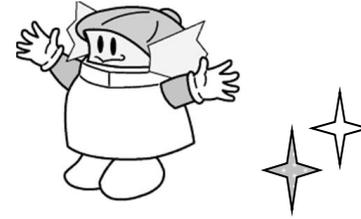
FAX 045-224-8109



あか せんきよ
明るい選挙キャラクター
せんきよ
選挙のめいすいくん



よこはましなかく
横浜市中区のマスコット
スウィンギー



よこはましせんきよ
横浜市選挙のマスコット
イコットJr.